

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191300041		
法人名	社会福祉法人慈恵会		
事業所名	さわやかグループホームさかほぎ		
所在地	岐阜県加茂郡坂祝町黒岩165-1		
自己評価作成日	平成23年8月31日	評価結果市町村受理日	平成23年12月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2191300041&SCD=320&PCD=21
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成23年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1ユニット9人の小規模の利点を活かし、フットワーク良くアットホームに出来る限り自由に、家庭と変わらぬ生活を追及している。地域との交流では廃物利用クラブや切手収集クラブにおいて、ボランティアさんに定期的に来て頂いたりしている。最近では隣町の手品の男性が定期的に訪問して下さっている。また地域のフォークダンスサークルや隣施設の習字クラブに参加している。毎週1回のヤクルト販売員の訪問などを通じて選択の機会の確保にも努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、法人総合施設の一部門を担っており、法人各施設の機能と連携し、保健・医療・福祉のネットワークを築いている。利用者が、家庭的な生活が送れるように、残存機能を活かし、自分の役割が活かせるように、地域との関わりの継続を大切にしている。地元の多くのボランティアと交流を深め、その中でも「臨床美術」を実践する専門ボランティアにより、脳の活性化を促す画期的な手法を取り入れている。ホーム周辺は、福祉施設や町営施設に恵まれた立地環境にあり、行政・自治会・周辺企業と連携の輪を築き、地域の福祉拠点として役割を果たしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	慈恵会基本理念を毎週月曜日に職員全員で唱和し、その理念を共有している。	個人の尊厳の尊重を含めた5項目の法人理念を、毎週月曜日に、全職員で唱和し、共有している。地域と密接に関わりながら、利用者の役割りや生きがいを引き出し、自立した生活を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接施設の行事やクラブに参加している。また、老人会や町民まつりにも参加して地域の一員として交流している。事業所周辺は地域の人の散歩コースなので、地域の人々と日常的にあいさつを交わしている。	周辺には、同法人の施設や公共の施設があり、行事やクラブ活動、町民祭り等に参加している。幼稚園児や地元の各種ボランティアの訪問は、日常的にある。散歩で行き交う住民と、親しく挨拶を交わしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	廃物利用クラブで作った作品を町民まつりでバザーに提供している。また、広告で作った箱を地域の保育園に届けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は、役場福祉課・民生委員・幼稚園園長・民生委員・家族代表等の参加で2ヶ月に1回開催している。事業運営報告を行い、会議で出された意見・要望はサービス向上に繋がっている。	会議は、行政・地域関係者・家族が参加し、隔月に開催している。運営報告に対する意見を話し合っている。出席者からは、テラスの屋根や広場の花壇の設置等の提案があり、実現している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議だけでなく、毎月開催される事業者連絡会議に出席し、事業者の入居状況や待機者について報告している。町担当課からは、町の行事予定や案内などの情報提供が行われ、協力関係を築いている。	毎月開催されている事業者連絡会議に出席し、事業運営報告を行っている。町担当課からは、法改正や行事、研修などの情報提供があり、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束の意味を十分理解し、身体拘束のないケアを実践している。また、玄関においても人の出入りをセンサーで感知し、チャイムで知らせている。また、玄関・窓・テラス共に施錠はしていない。	身体拘束の意義を、学習会で学び、拘束のないケアを行っている。玄関は日中開放し、利用者は自由に出入りしている。心配な人には、職員が付き添っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学んでおり、職員一同注意を払い虐待の防止に努めている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について学んでいるが、現在は適応する人がいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や契約解除時や料金改定時の際は、利用者や家族に疑問や不安のないようゆっくり丁寧に説明を行い、納得を得た上で手続きを進めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時には気兼ねなく意見が言えるよう雰囲気づくりに努めている。意見・要望があるときは、施設長も参加する介護員会議の席で議題としている。また可能なことは速やかに対応し、改善している。	家族と面会時や電話で意見・要望を確認している。「便りにある利用者の笑顔の写真に安心する」「外食での食べ過ぎに配慮してほしい」などの意見がある。意見等は、職員会議で検討し、速やかに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月管理者を交えた職員会議で意見や提案を聞いている。職員からはいろいろな意見や要望等を聞いている。意見や要望は当施設のエリア会議で検討し、意見を反映させている。	管理者は、毎月の定例会議で、職員の意見や提案を聞いている。職員からは、名所地への外出計画、外食を楽しむ支援や、勤務調整等が提案されている。提案等は、管理者会議で検討し、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人として非常勤から常勤職員への移行や、資格手当の増額による資格取得への意欲向上などの働く環境の整備、現場からの提案事項の迅速な許可などの現場尊重の姿勢、定期昇給の実践等給与面の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループ法人が主催する半年間1サイクルの新人研修や、1年間1サイクルの中堅者研修への参加や県主催の研修会、地域の研修会への参加の機会を確保し、職員個々や事業所の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループ法人のグループホーム6事業所と2ヶ月に1回の定例会議を実施し、その際、会議開催場所を各事業所持ち回りとし、相互のネットワークの強化、互いの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されて間もない方には特に細心の注意を払い、心配事や困ったことがないかどうか伺っている。また、何か要望がないかどうかお聞きし、本人の気持ちを受け止めるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時など最初に分からないことや不安なことをゆっくり伺い、説明等を通して安心して頂くように努めている。また、面会時にもその都度伺って信頼関係を深めるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族から相談を受けた時は、すぐに必要な対応をしている。また常にご利用者やご家族の立場に立った近況の把握と傾聴に努め、ニーズを見極めるよう心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を人生の先輩として捉え、生活のいろいろな場面で意見を伺ったり教えて頂いたりまたお願いしたりと、共に持ちつ持たれつ関係を築くように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会時のときには、できるだけ日常生活の様子を伝えたり、また利用者の家族への温かい思いを伝えたりして、本人と家族との絆を大切に深めるように支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や近所の人に遊びに来て頂いている。また通っていたデイサービスや社会福祉協議会の行事に参加して知人と再会している。地域の町民まつりなどにも積極的に参加し、馴染みの関係が途切れないように支援している。	近所の知人・友人が、よく遊びに来ている。併設のデイサービス利用の知人と会うため、相互に行き来したり、近くにある社会福祉協議会の行事や町民祭りに参加し、馴染みの人と出会える機会を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で会話がはずむように仲介している。しかし相性が合わない人もいるので、トラブルになることもある。そんな時は間に入りそれぞれの方の居室にて心の訴えに傾聴し、落ち着いて頂けるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される時も退所後の方向性を家族と共に考え、利用者が一番ふさわしい状況になるように支援している。また退所先の関係者には本人の状況や習慣、好みなど出来る限り詳細な情報を提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個々のやりたい事・出来る事を、日常の会話や家族からの情報で把握している。その日の気分や体調に合わせ、散歩や買い物またアクティビティなど個々の意向に配慮して支援している。	日常の会話や家族から情報を得て、思いや希望を把握している。難聴の人もいるので、表情や動作から汲み取っている。把握した思いや意向は、その人らしい穏やかな暮らしを送れるよう役立っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりのこれまでの生活歴や暮らしなどを面会時に家族や知人から伺ったり、日常の会話から読み取り把握し、それを生活に活かせるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った一日の過ごし方をして頂いている。頭の体操としてプリントをしたり、機能訓練をしたり、いろいろな家事を手伝って頂いたりその人の有する能力を発揮して頂けるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を伺い、双方の意向を反映した利用者主体の介護計画を作成している。また、3ヶ月毎の定期見直しと、状態の変化に応じ随時見直しを行っている。	本人・家族の希望、ケア会議での職員の意見を、介護計画に反映している。状態に変化があれば、かかりつけ医、看護師、管理栄養士等と話し合って見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や排泄またケアの内容などケース記録に個別に記入している。また、きずきや工夫など職員間で情報共有するため、職員間申し送りノートを使用しケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズや希望に合わせて柔軟に対応している。生まれた故郷へ行きたい。そして劇が見たい。そんな願いを叶えるため故郷へ行き、実家のあった場所をドライブし観劇をして帰る。また保育園園児がホームへ訪問してくれる機会を設けている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域消防署の指導のもと地元自治会や企業との防災協定を締結し、総合防災訓練を行っている。また民生委員やボランティア、保育園等と日頃より交流し豊かな暮らしを提供できるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者個々のかかりつけ医には、基本的に家族の同行で受診している。希望者には、1ヶ月ごとの体温・血圧等の測定値を医師に提示している。家族の都合や緊急時には、職員が受診に同行している。	利用者個々に、これまでのかかりつけ医を継続している。受診は、家族が対応しているが、家族の都合や緊急時は、職員が同行している。また、職員は併設デイサービスの看護師から常に医療的知識の指導を受け、ケアの対応に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設施設の看護師との連携により日頃より医療面の指導助言を受け、急変時には相談助言の体制を構築している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者が入院した際は定期的に面会に行き、ソーシャルワーカーや主治医、看護師長らとの連携を図りスムーズに入退院が行えるよう関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化・終末期について、入居前に事業所の方針を本人・家族に十分説明し、了承を得ている。終末期には、退居してもらう方針である。退居後の受け入れ先の確保等、利用者・家族が安心できるように支援している。	重度化や終末期の方針を、利用開始時に説明している。ホームでの共同生活が困難になれば、他の介護施設か医療機関に移ることを方針としている。その場合でも、次の受け入れ先を確保できるように支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルの常備また利用者の急変や事故発生時に備えて、併設施設の看護師から応急手当の仕方や初期対応の仕方など指導助言を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月1回の自主避難訓練を実施している。また行政や地元自治会と合同で、夜間や風水害などを想定した訓練を積極的に実施している。運営推進会議などで報告し、利用者・家族に周知してもらい安心して頂いている。3日分の備蓄も備えている。	行政や地元企業と、防災協定を結んでいる。行政が参加し、地元自治会、地元企業と合同で、年3回の防災訓練を実施している。また、毎月1回、自主的に避難訓練を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者一人ひとりに丁寧な言葉かけを行っている。また、排泄支援のときは交換したパッドを新聞紙に包んで見えないようにするなどプライバシーに配慮したケアを実践している。利用者の出来ることへの支援も無理強いしないよう配慮している。	利用者の尊厳を損なうような、声かけや態度をとらないようにしている。居室へ入る時は、許可を得ている。本人のペースを尊重し、無理強いをしないケアを支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活のなかで本人の思いや希望を表出できるような問いかけや言葉掛けをしている。意思表示のあまり出来ない人には、表情を見て本人の希望を把握するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内での決まりごとは特になく、個々に本人のペースで過ごして頂いている。家事の手伝い、頭の体操、機能訓練など利用者の希望に添ってその人らしく過ごしてもらえるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身だしなみやおしゃれは利用者の好みを把握し、その人らしい装いになるよう支援している。散髪は移動美容室に依頼し、好みのスタイルになるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物は利用者と一緒に出掛け選んでもらっている。調理の下準備や盛り付け、配膳、片づけ、食器洗い、食器拭き等利用者の力を発揮できる役割を引き出し職員とともにやっている。食卓も利用者と一緒に囲み会話も賑やかである。また、季節料理も多く取り入れるようにしている。	食材の買出しから調理の準備、片付けなどを、職員と一緒にやっている。季節の料理を話題に、賑やかな食卓となっている。月に1回、外食に出かけるのを楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食後の食事や水分の摂取量を把握し、必要な人には栄養補助食品を摂って頂いたりしている。併設の管理栄養士に毎月栄養チェックをしてもらい、指導助言を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けをしている。自己にて出来ない人については、かならず付き添い口腔内の清潔保持に努めている。夜間はポリドントに浸けている。		

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄習慣やパターンを把握し、それに合わせて支援し自立に向けた取り組みを行っている。尿意のない方においては、定期的なトイレ誘導を行い排尿のタイミングを見つけるように支援している。	個々の排泄習慣やパターンを、送りノートに記録し、職員間で共有している。タイミングよくトイレに誘導し、排泄の自立を支援している。夜間も、ポータブルトイレを使わず、トイレへ誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のため水分をできるだけ摂って頂くように支援している。また、散歩や機能訓練をしたり食物繊維の多い食品を摂って頂いたり工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は基本的に週3回以上で毎日の希望があれば対応している。菖蒲湯、ゆず湯など季節のもののはかならず取り入れている。通常は入浴剤を利用し温泉気分を味わっている。	入浴は、希望があれば毎日でも可能となっている。ためらう人には、風呂・入浴・脱ぐなどの言葉を避け「暖かいところで着替えましょう」などと優しく誘導している。季節の入浴剤を入れ、温泉気分を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて自由に休息して頂いている。また夜間も希望の時間まで自由にテレビを見て、穏やかに気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各人の薬の目的や用法など理解しており、自分で服薬できない方には確実に手渡し、手の不自由な方には口まで薬を運んでいる。また、症状の変化には細心の注意を払い支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を考え家事手伝いをして頂いている。またクラブ活動を通して楽しみごとや気分転換の支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の散歩は一人ひとりの希望で行き先と体調に合わせて支援している。事業所前の鯉にいつも餌をあげている。その餌を買いに出掛けたり、食材を買いに近くのスーパーと一緒に出掛けたり定期的に出掛けている。	ホーム周辺を毎日散歩し、地域住民と挨拶を交わしている。また、ドライブをかねて、買い物や馴染みの場所へ出かけている。年間計画では、季節の花見や日帰りバス旅行を支援している。	

岐阜県 さわやかグループホームさかほぎ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己にて現金管理できる人は家族了承のもと所持金をいくらか持ち、買い物時は自分で支払われる。現在一人のみである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があればいつでも対応し、自分でかけることが出来る人には使用していただいている。また依頼された場合は、職員がかわりに連絡している。手紙も依頼があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室と共用空間は利用者と共に毎日掃除し、隅々まできれいにしている。木のぬくもりのある建物で、天井も高く採光もやさしい。利用者が自分の力で動けるように手すりを設置し、障壁のない空間を確保している。また、玄関やホールには季節の花を飾り、居心地のよい空間づくりをしている。また廊下には行事や外出時の写真を貼り出している。	共用の空間は、明るく落ち着いている。利用者は、テラスの椅子で寛いだり、和室で、趣味の手芸を楽しんでいる。玄関や居間には、季節の花や暮らしの写真を飾り、居心地良く過ごせるように工夫している。	食事の時間はテレビを消し、会話を楽しめるように配慮しているが、玄関のチャイムが絶えず作動し、高音で響いている。食事時だけでも、消音の工夫を期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用のテレビはホールにあり、いつでも誰でも自由に見る事ができる。静かに独りになりたい方は居室で過ごしたり、また自室にテレビを持ち込まれている方は自由に見ておられる。気の合った人同士で居室で談話されることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面台・ベッド・タンス・押し入れを備え付けている。各人思い思いの飾りつけをしている。自宅で使い慣れた座卓や椅子を持ち込まれている人もいる。居室の入口には、自分の部屋と認識出来るように木の表札を掛けている。	居室のベッド、洗面台、タンスは、ホームの備品である。使い慣れた馴染みのテーブルや椅子を持ち込んでもらっている。壁には、家族の写真や本人の手づくり作品、絵などを自由に飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室を間違える人には入口にのれんを掛けたり、トイレの分からない人には分かるように表示したり、食堂の椅子に杖置きを取り付けたりと安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。		